

## 編集後記

山本 冴里 第10巻1～2号編集責任

『言語文化教育研究』第10巻は、1号2号をあわせて3本の掲載になりました。本数としては少ないですが、いずれも実のある論文です。

創刊から10年たち、実践研究論文を中心に、これまで幾つもの議論が本誌上で展開されてきました。本誌をきっかけに対話がはじまり、続いていくこと。それは査読や編集委員会の間で、何度も「そうならいいね」「そうできるようなシステムを作ろうよ」と話題になってきたことでもあります。

読者の皆様におかれましても、今回掲載の3本に触発されるところがあれば、編集委員会へのご連絡という形で、あるいは論文投稿という形で議論に参加していただければ幸いです。

新たな10年に入る次号には、特集号を予定しています。次号にもたくさんのご投稿をお待ちしています。  
(やまもと・さえり)

張 珍華 第10巻3号 編集責任

『言語文化教育研究』第10巻は、1, 2, 3号の合併号となっています。3号には、5本の研究論文が寄せられ、編集委員会での査読の結果、1本が修正採用となり、掲載されるに至りました。少ない本数ではありますが、日本語教育における新たな教師養成の様相が描かれた大変オリジナリティーのある論文です。

さらに、第10巻3号より、丁寧かつ建設的なコメントを執筆者に返すようにするため、編集委員会では査読体制を新たにして、査読を実施しました。今後も、投稿者の皆様、読者の皆様に開かれた言説空間が提供できるよう工夫を続けていきたいと考えています。

(チャン・ジンハ)

## 投稿規程

1. 本誌は、早稲田大学日本語教育研究センター言語文化教育研究会が、年2回、春・秋にインターネット上および印刷媒体で発行するものである。
2. 投稿者の資格等についてはとくに問わない。
3. 投稿原稿の内容は、「言語文化教育」に関するもので、未発表のものに限り、使用言語は原則として日本語とする。
4. 掲載原稿の種別は、論文、教育研究ノート、書評、近況等とする。
5. 原稿の掲載にあたっては査読をおこない、その採否については編集委員会において決定する。
6. 原稿の執筆および提出方法については、別に定める「執筆要領」に基づく。
7. 投稿締め切りは、原則として発行の2ヶ月前、2月末日、8月末日それぞれの正午（必着）とする。
8. 投稿は、上記7. の締め切りまでに、下に示す『言語文化教育研究』事務局へのE-Mailアドレスでのみ受け付ける。送信の際、E-mail本文に、論文名、執筆者名、所属機関、連絡先（住所、E-Mailアドレス）を明記し、原稿ファイルを添付すること。ファイルの形式およびファイル名の書式は、別に定める「執筆要領」に基づく。  
・『言語文化教育研究』事務局 E-Mail アドレス： [list@gbkk.jp](mailto:list@gbkk.jp)
9. 「執筆要領」は、<http://gbkk.jp/rules.html#style> に掲載。

以上

## 執筆要領

### 1. テーマ

「言語文化教育」に沿った内容のもの

### 2. 内容

それぞれの立場と言語文化教育との関係がわかりやすく記述されたもの。

結論において執筆者の主張が明確に打ち出されたもの。

### 3. 分量

制限なし

### 4. 書式

1. 投稿原稿は原則として、「A4 判横書きの Microsoft Word 形式」または「テキストファイル形式」とし、句読点（「,」「。」を使用）その他の記号は全角、欧文・数字は半角扱いとする。

2. 投稿原稿には、本文の前に概要（200 字程度）、キーワード（5 字程度）を付すこと。

3. 文献は、著者別 50 音順にあげる。欧文その他の文献は、和文文献のあとにアルファベット順にまとめること（詳細は、以下の URL から言語文化教育研究所の「論文執筆ガイド」を参照）。

・ URL : <http://www.gbki.org/styleguide.html>

以上

## 本誌の編集方針

本誌のタイトルどおり、ここでの大きなテーマは、「言語文化教育とは何か」という問いを追求することである。理論的・実践的に新しい「言語文化教育」の在り方・その実践方法を探求していくことが本誌の目的である。そのために以下のような方針で本誌を編集する。

- ・ 他の論文誌では取り上げられにくい、日本語教育の問題として考える意義があるものを積極的に取り上げていく。
- ・ 萌芽研究的なものや、教室実践の具体的な様相に十分な紙幅を割いて論じることのできる言説空間を築く。
- ・ 自己完結するのではなく、開かれた議論を目指し、「コメント論文」「書評論文」などを積極的に取り上げ、対話的論文誌を目指す。

なお、この教育研究誌の母体は、早稲田大学日本語教育研究センターが主催する言語文化教育研究会である。

2011 年 5 月 細川英雄

※『言語文化教育研究』に関する問い合わせは、E メールにて、『言語文化教育研究』事務局までお送り下さい。

・『言語文化教育研究』事務局 : [list@gbkk.jp](mailto:list@gbkk.jp)

※『言語文化教育研究』のバックナンバーは、言語文化教育研究会の WEB サイトから閲覧できます。

・ URL : <http://gbkk.jp>

### 執筆者 (50音順)

高橋 聡 早稲田大学日本語教育研究センター

原 伸太郎 早稲田大学大学院日本語教育研究科

山本 晋也 早稲田大学大学院日本語教育研究科

### 編集委員 (50音順)

牛窪隆太, 佐藤貴仁, 田中里奈, 張珍華 (3号編集代表), 鄭京姫 (1~2号), 細川英雄 (1~2号), 山本冴里 (1~2号編集代表)

### 査読協力者 (50音順)

市嶋典子, 牛窪隆太, 佐藤貴仁, 塩谷奈緒子, 牲川波都季, 田中里奈, 張珍華, 鄭京姫, 三代純平, 山本冴里

## 言語文化教育研究 第10巻

---

発行日 2012年5月1日

発行・編集 早稲田大学日本語教育研究センター 言語文化教育研究会

編集責任者 細川英雄

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-7-14-705

<http://gbkk.jp/>

D T P ケイ商店

---

©2012 早稲田大学日本語教育研究センター 言語文化教育研究会

本書の一部または全部について、著作者から承諾を得ずに複写・複製・転載することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。